

わたしの聖戦

◎◎女性が働くことについて◎◎ 53

医学ジャーナリスト・医学博士 植田美津江

アフリカと日本

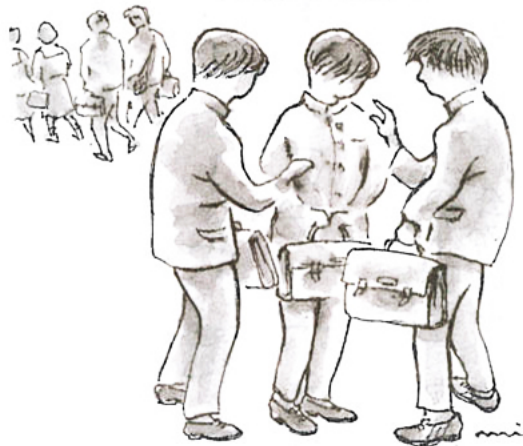
リベリアという国の女性大統領の姿をテレビで見た。

エレン・ジョン・サーリーフ、68歳。冒頭で「この1年、過去の男性大統領の誰よりもよく働いた」と述べた。静かな口調がかえってその苦労を物語っている気がした。

リベリアは、アフリカの西部にある。15年も内戦が続いたために、すっかり荒廃してしまっている。2005年11月に就任して1年半、独裁国家からの離脱を目指してがむしゃらに仕事をしてきたのだろう。：といても、がむしゃらという感じがしない。確かに「鉄の女」と呼ばれている。

屋台でバナナチップを売っているが、とてもそれでは生活ができないので、服の仕立てができるようミシンを習う。他の女性たちも同様に、ある者はパソコンを、またある者は美容師修行。今よりもっと豊かな生活を目指し、懸命に習い働く。かつて

小中学校でのいじめ問題が……



国では、どうして女性がバリバリ働き、男性はのらりくらりとしているのだらう。バナナチップ女性の夫も若く健康そうなのに、職がないといって子供たちと遊んだり、ごろごろしていた。

日本にもあったまっすぐでわかりやすい向上心にあふれているのを見ると、いつものことだが私たちがとうに失くした、人間にとってもっとも尊い何かを感じてしまう。

「学校に行きたい」：!! そんなことを口にする子供たちはわが国では希少価値だ。給食や体育の時間だけが楽しみといった無邪気な答えさえ、めったに耳にしなくなつた。いったい人間というの

は、恵まれすぎるとそれが当たり前になつてしまひ、現状に飽きるのだらうか。モノがあふれ、法律や制度が整い、国として成熟するということは、人間をだめにしてしまうことなのだらうか。内戦も飢餓も伝染病の大流行もない国なのに、なぜ人々ろろろか。

小・中学校でのいじめ問題が話題にのぼる。いじめの報道を見て、10代後半の女の子が携帯メールを打ちながらつぶやいた。「暇なんだよね、みんな」。つまり、彼女がいうには高校生になれば興味はソトに向くから、いじめからは卒業するのだという。「暇だからいじめ」：、斬新で意外な若者の意見に目からウロコの気分だった。

同時に、女性大統領の活躍とリベリアの復興を願う、：なんて思うこと自体がとても僭越で恥ずかしいほどであった。